

① 八雲神社すさのおのみこと(祭神は素戔嗚命)

旧内浦村字市川に所在。通称は市川の天王様（宮）。例祭日は7月24日。

神社に伝わる由緒には、「治承4年（1180）、源頼朝が、源家再興祈願のため尊像一体と神宝を献納されたのにはじまる」と伝えられる。その後、里見義頼氏（房総里見八代の当主）が、慶長6年（1601）、神鏡等の品々を献上した」と言われる。なお、安政5年（1858）の火災によって焼失した建物は、安政7年に再建。当時の名主は、渡辺喜内、大工は、小湊の佐藤裕助と倅の宗助であった。現在の社殿は、昭和11年（1936）に再建された。

② 鯛の浦遊覧船乗り場

日蓮聖人誕生の地。日蓮聖人ご誕生の3つの不思議な出来事の1つが鯛の浦の鯛で、国指定特別天然記念物に指定されている。学術的にも貴重で珍しく、日蓮聖人の化身とも言われている。鯛の浦遊覧船は、不思議な鯛に会えるだけでなく、絵地図④、⑤の大弁天・小弁天・行幸啓記念碑など国定公園小湊の絶景ロケーションを潮の香りと波しぶきを肌で感じながら海から楽しむことができる。

③ 小湊神社あまてらすおのみかみ(祭神は天照大神)

小湊字ほらいやま砦山に所在。創立年月不詳。

古来社地を神明山と称し、天照皇大神を祀る小湊一村の氏神であった。社地が日蓮宗大本山誕生寺の西南に隣接するため、同寺を守護する神であると伝えられ、法華経の守護神さんじやうほんじん三十番神にちなみ、通称を「番神社」ともいう。三十番神とは、1ヶ月30日の間、毎日交替の当番で国家や法華経の信仰者を守護する、日本国中に祀られている三十の神々のこと。小湊神社の社殿には、この三十番神の神像がひとつの厨子に安置され、毎月1日や祭礼時に、誕生寺の役僧が祖師堂で読経し、その後、社殿に出向いて、「海上安全」、「大漁満足」の祈願を込めて読経する。

④ 鯛の浦遊歩道

絵地図⑤の行幸啓記念碑まで海沿いを歩く、往復20分ほどの遊歩道である。片側は海、他方は山という山海同時に楽しみ、自然を満喫して歩くのに丁度よい距離で、弁天様が祀られている、大弁天・小弁天の2つの島がある。この入江沿いの地が、日蓮聖人ゆかりの「蓮華ヶ淵」と言われている。

日蓮聖人は、貞応元年（1222）2月16日、安房国長狭郡東条郷片海（現小湊）の地に誕生した。この時、突然庭に岩清水がわき、浜辺には蓮華が咲き乱れ、海には大鯛・小鯛が群れ集まったといわれ、「誕生水」・「蓮華ヶ淵」・「妙ノ浦」の三奇瑞の伝承がある。

⑤ 行幸啓記念碑きやうこうけいきねんひ

昭和天皇・皇后両陛下行幸啓記念碑。昭和48年（1973）10月13日、昭和天皇・皇后両陛下が、鯛の浦の鯛をご覧になられた。その際、お読みになられたお歌を記念碑に刻み、小湊湾を一望する日蓮聖人ゆかりの地に東屋と共に建立し、永く後世に伝えている。

記念碑のお歌

「波の間に すがたを見せつつ鯛の群れ ふなべり近く あまた寄りくる」

⑥ 誕生寺（日蓮宗）

小湊字小湊山に所在。山号は小湊山。日蓮宗の大本山。本尊は十界大曼荼羅。日蓮聖人の霊跡寺院の一つとして全国的に知られている名刹である。

日蓮聖人誕生の地である蓮華ヶ淵に、一寺を建立したのが誕生寺の起源とされているが、蓮華ヶ淵は、2度の津波等によって被害を受けたため、2度場所を移し、現在地に至っている。天保13年（1842）建立の大祖師堂には、木造日蓮聖人坐像が安置されている。境内には、日蓮聖人御幼像と千葉県指定文化財「仁王門」があり、太田稻荷堂には、3代伊八の彫った紅梁の龍がある。他に、県指定文化財「富城殿女房尼御前御書」、市指定文化財「木造日蓮聖人坐像」等がある。また、祖師堂の鬼瓦は、量21畳分、重さは2トンである。誕生寺は、日本のかおり風景100選にも選ばれている。

⑦ 妙蓮寺（日蓮宗）

小湊字北町に所在。日蓮宗。山号は妙日山。日蓮宗宗門史跡。

日蓮聖人の母君、法名「妙蓮」尊尼がご入寂の折、聖人は、父君、法名「妙日」尊儀の霊域に墓塔を建て、自ら両親の法号をとられて、妙日山妙蓮寺と命名したとされ、その後、誕生寺3世日静上人がここに堂宇を建立した。聖人の両親を祀る寺として「両親閣」といわれている。大本山誕生寺末寺の筆頭の格式をもつ寺として、江戸時代には誕生寺の代理として、住職がしばしば江戸城に登城したという由緒ある寺院である。

⑧ 日蓮寺にぢれんじ（日蓮宗）

内浦字岩高山がんこうざんに所在。山号は岩高山。寺伝によれば、建治3年（1277）、寂日坊日家（誕生寺2世）の開山。誕生寺の末寺。

文永元年（1264）、日蓮聖人が東条小松原こまつばらにおいて法難に遭い、当所へ避難・養生をした。そのゆかりの地に、日家が一寺を建てたのが起源と伝えられていることから、剣難除けの祖師と称される。境内には、日蓮聖人が疵を洗ったという「疵洗井」やお手植えの橙がある。また、岩穴の砂を傷にぬると、出血が止まったため「血止めの砂」と呼ばれる伝承がある。

鴨川市教育委員会 生涯学習課 文化振興室 郷土資料館 鴨川市横渚1406-1 電話 04-7093-3800 平成24年1月

作図 辰野節子